

単元の目標	知識及び技能	50	時
	思考力、判断力、表現力等		
単元の目標	学びに向かう力、人間性等	40	時
単元の目標	知識及び技能	30	時
単元の目標	思考力、判断力、表現力等	20	時
単元の目標	学びに向かう力、人間性等	10	時
単元計画(指導と評価の計画)		0	時
授業づくりのポイント			
主な評価方法			
目標の技能			



こちらからダウンロードできます。

単元計画(指導と評価の計画)を作成する際に活用してください。

指導と評価の計画

令和4年3月 埼玉県教育委員会

運動好きな児童生徒育成のために 高等学校

I はじめに

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を見ると、本県児童生徒の体力合計点は高い水準であるものの、「運動やスポーツが好き」という項目においては、全国平均を下回っています。(図1)

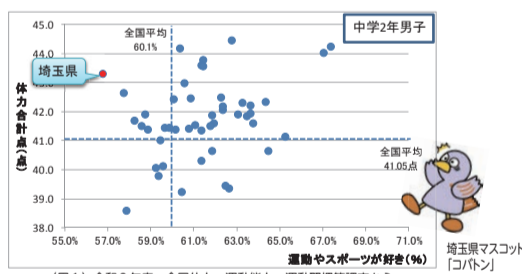
体育・保健体育科の目標である「豊かなスポーツライフ」を実現するためには、運動好きな児童生徒を育成することは重要です。そこで埼玉県教育委員会では、運動好きな児童生徒育成推進委員会を設立し、運動好きな児童生徒の育成を図っていくこととしました。

運動好きな児童生徒を育成するためには、日々の体育・保健体育の授業の充実が不可欠です。そのため、令和3年度は主に単元計画(指導と評価の計画)の作成に視点を当てたリーフレットを作成しました。

II 本リーフレットの活用にあたって

体育・保健体育の授業の充実を図るための視点として、令和4年度から年次進行での実施となる学習指導要領(平成30年告示)では、「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善が求められています。これらは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して授業改善を進めることが重要とされています。つまり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは、単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他なりません。

そこで、本リーフレットでは、単元計画を作成する際の考え方を示しました。年度初め、学期初め、単元開始前等に単元計画を作成する上での資料として活用してください。



(図1) 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

III 単元を計画する前に確認しておくこと

運動の特性や魅力

- 主に機能的特性(生徒にとっての楽しさや喜びの視点を重視)

高等学校学習指導要領解説保健体育編 体育編(平成30年7月)第2章 第2節 各科目の目標及び内容に示されている各領域のリード文等を参考にしましょう。

目指すゴール像の設定

- 本単元を通して育てたい具体的な姿

資質・能力の三つの柱に基づいて設定します。

生徒の実態把握

- 既習の学習内容及び定着状況

アンケートの実施やクラウド上のデータの整理等により実態を把握します。

保健体育科の目標は、入学年次、入学年次の次の年次以降の二段階で示されています。

高等学校学習指導要領(平成30年告示)第6節 保健体育 第2款 各科目の1目標及び2内容を確認しましょう。

そして、

- 知識及び技能
- 思考力、判断力、表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

の三つの柱で学習する内容や目指すゴール像を明確にします。



「いつ」「何を」(学習内容の明確化)「どのように」指導し、「いつ」「何を」「どのように」評価するのか(指導と評価の一体化)を明確にしましょう!

単元の目標	時	1~X	単元最終
	0	<p>見通す (期待感や挑戦意欲をもつ)</p> <p>知って 考えて 学び合う (運動の行い方を知る・課題を把握して解決を図る)</p> <p>振り返る (成長を実感する)</p> <p>「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく配置する</p>	
	10	<p>学習の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のゴール像 安全な行い方 試しの運動、ゲーム <p>【導入】主運動につながる運動をする 本時のねらいを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 感覚づくりの運動、補助運動や部分練習等(継続的に取り組み、自己の伸びが実感できる運動) 何を学習し、何ができればよいのかの提示 児童にとって必要感のあるねらいの設定 	 <p>この運動は〇〇の動きにつながっていくんだな</p>
	20	<p>①運動の行い方を知る</p> <p>この技のポイントは…</p> <p>今日は〇〇を学習するんだな。私は△△をがんばろう!</p>	<p>自己やチームの成長を実感する</p> <ul style="list-style-type: none"> 育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った振り返り 学習カードやICT機器等による変容の可視化
	30	<p>②課題を把握する</p> <p>自分の課題は… 仲間の課題は…</p> <p>〇〇さんのよいところは…</p>	<p>次の学びへつなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の変容への気付き
	40	<p>③課題解決を図る</p> <p>さっきのゲームを振り返ると…</p>	<p>私ってけっこうがんばったな。</p>
	50	<p>④新たな課題に取り組む</p> <p>【整理】本時の振り返り、まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに沿った生徒による学習の振り返り及び教員のまとめ 次時への見通し 	
評価機会	時	<p>〇単元前半で評価した項目が、単元終盤までによりよく変容していくように、指導の充実や改善を図るための評価とする。</p> <p>〇教師の指導改善を図るとともに、生徒自身が自らの学びを振り返り、次の学びに向かうことができるようにするために、「何を教えるのか」「どのように教えるのか」といった、指導内容や指導方法等と関連付けて評価を進めていく。</p> <p>〇学習評価を「生徒の学習改善につながるもの」として活用するために、育成を目指す資質・能力毎に、評価情報を、どのような方法で、どのタイミングで生徒にフィードバックすることが効果的であるかを考慮して、指導と評価の計画を作成していく。</p>	
	知		総合的な評価
	思		
	態		

単元計画(指導と評価の計画)例【入学年次の次の年次以降：器械運動】

◎時間配分は生徒の実態等に応じて弾力的に設定する。

単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<p>〇学習指導要領(平成30年告示)に示されている内容を、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って書き出す。</p> <p>〇文末は「～することができるようにする。」とする。</p> <p>〇本単元で指導・評価しない内容については()を付けて示す。</p>		
	時	1~X	単元最終
	0	<p>健康観察 ・ 準備運動 ・ 本時の目標 ・ 内容等の確認 ・ 感覚づくり(ゆりかご・かえる跳び・川渡り・ブリッジなど)</p> <p>①運動の行い方を知る ②課題を把握する ③課題解決を図る ④新たな課題に取り組む</p> <p>①~④のサイクルを繰り返す</p> <p>自己やグループの成長を実感する 次の学びにつなげる</p>	授業づくりのポイント
	10	<p>〇履修状況の確認</p> <p>〇既習技の復習(学び直し)</p> <ul style="list-style-type: none"> マット運動 鉄棒運動 平均台運動 跳び箱運動 <p>〇課題解決の方法の確認</p> <p>〇体ほぐしの運動及び感覚づくりの確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三つの資質・能力の内容をバランスよく配置する。 主体的な学習を行うことができるようにする。 様々な違いに応じた課題や挑戦などを尊重できるようにする。 多様な関わり方を経験できるようにする。
	20	<p>〇マット運動と鉄棒運動(時間の半分で交代)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己に適した技の選択及び練習 <p>〇平均台運動と跳び箱運動(時間の半分で交代)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己に適した技の選択及び練習 <p>〇「マット・鉄棒・平均台・跳び箱」の中から最終の演技発表とは異なる2種類の演技を構成する。</p> <p>〇簡易演技発表会(2種目・五つの演技)(跳び箱は二つの技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 演技しやすい場やルールを考える <p>〇グループ内で各自が選んだ技を見せ合う(体力や技能及び性別等の違いを活かす)</p> <p>〇発表会の演技を構成する</p> <p>知②演技構成</p> <p>〇発表会での役割を考える</p> <p>思②役割の提案</p>	
	30	<p>知①行い方のポイント</p> <p>技①安定 技②一連の動き</p> <p>〇よい点や修正点の指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな課題の発見(ICT活用) <p>〇高いに助け合い</p> <p>思①危険回避</p> <p>思③違いを越えて楽しむ調整の仕方</p> <p>態③一人一人の違いの大切さ</p> <p>思④多様な関わり方</p>	
	40	<p>個別最適な学び・協働的な学び × ICT機器の活用</p> <p>整理運動 ・ 本時の振り返り ・ 次時の確認</p>	
	50		
※1 評価機会	時		主な評価方法
	知		総合的な評価
	思		
	態		
単元の評価規準	知	<p>※1【評価機会について】</p> <p>〇「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を単元を通して適切な機会に配置する。</p> <p>〇「知識」及び「思考・判断・表現」は、基本的に指導した時間と言ったり書いたりしていること等を用いて評価する。「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」は、指導してすぐに身に付くものではないことから、育成する期間を設けるため、指導と評価の時間をずらすことも考えられる。その際は該当の指導内容をいつ評価するかわかるように、指導と評価の関連性を矢印で示す。(※3参照)</p> <p>〇最終の時間において、必要な観点や個々の生徒について最終確認を行う工夫として、「総合的な評価」を配置することも考えられる。</p>	